

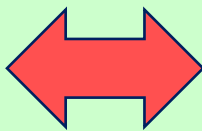
自己有用感を高め、互いの絆を深めることができる生徒の育成

—互いを認め合うグループワークやソーシャルスキルトレーニングの指導実践を通して—

特別研修員 生徒指導・教育相談 阿佐美勝（中学校教諭）

【生徒の実態】

- ・自己有用感を感じられていない生徒が多い。
- ・人の役に立ったと実感できていない傾向がある。



【生徒指導リーフ9】「いじめの未然防止Ⅱ」

“絆づくり”のための場づくり

【平成28年度学校教育の指針】

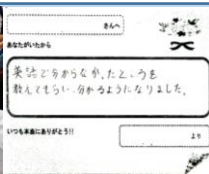
自己有用感をはぐくむ教育の充実

【目指す生徒像】

「自己有用感を高め、互いの絆を深めることができる生徒」

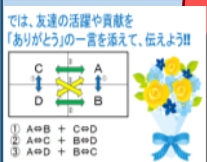
実践①

友達の頑張りやよさに対する感謝のメッセージづくり



担任からのメッセージも加えるとともに、事前にSSTを実施し、互いを尊重したメッセージづくりを心掛けた

「ありがとう」の言葉を添えて、感謝のメッセージを渡す



ICTを活用して、一人一人が丁寧にメッセージを渡せるよう工夫した



・目を見ずに「ありがとう」を言うのではなく、しっかり目を見て伝えたいです。人への感謝を忘れずに生活したいです。

互いを認め合い、互いの絆を深める授業づくり

手立て

①互いの頑張りやよさを伝え合うグループワーク

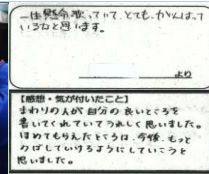
②輪番制の司会団による生徒主体の話合い活動

ソーシャルスキルトレーニング（SST）
「メッセージの伝え方」
「話し方・聞き方」など

- ・自己有用感の向上
- ・互いの絆の深まり
- ・主体的な取組

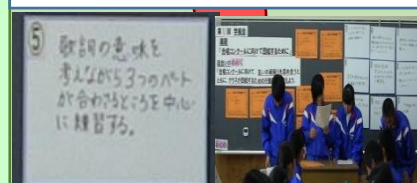
実践②

互いの頑張りやよさを伝え合う「コンプリメント・シャワー」



互いの活躍に気付くため、合唱のパートごとにグループを編成した

生徒主体の学級会による合唱コンクールに向けての行動目標づくり



「司会役2名・黒板書記2名・記録係1名」の5名の司会団で、「何を・いつ・どのように」合唱練習に取り組むのか、具体的な行動目標を考えた

- ・自分の良いところを見てくれていた友達がいる、その友達のおかげで、自分の良いところに気付くことができました。
- ・クラスであまり話せない人とも話せて、絆が深まったと思います。

【成果】

- ◎「私は、クラスの人役に立っている」という自己有用感に関する調査で、「はい」と回答した生徒が、22%から32%に増加した。
- ◎合唱コンクールに向けて、クラスが団結して、主体的に目標を達成しようと努力する姿が見られた。

【課題】

- 生徒の自己有用感をさらに向上させるため、学年の中で連携し、共通の指導実践を行ってきたい。
- 今後も、生徒の絆を深めるために、継続的・計画的に互いを認め合う活動に取り組む必要がある。